

第3回 港湾における i-Construction・インフラ DX 推進委員会 議 事 概 要

日 時：令和7年11月27日（木） 9：30～11：30

場 所：（一財）港湾空港総合技術センター 2階会議室 および Web 会議

1. 主な議事

- 事務局より、本年度の委員会での取り組み内容等について説明をした後、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

（ICT 施工に係る取組）

- ICT 活用工事に関する各種要領のスリム化を進めるにあたり、総括表には現行要領の整理だけでなく、ICT 施工に関わる多様な取組、研修・講習会資料などへのリンクも含めるなど、情報の幅を広げた工夫を期待する。
- 中小企業向け ICT 活用施工管理モデル工事については、「ICT 機器を導入しても、活用できる現場が少ないため投資効果が限定的になる」という意見が中小企業から寄せられており、こうした課題への対応が必要として、陸上工事との共通化に留まらず、補助・自治体単独事業や漁港事業などの海上工事への展開を図ることも重要である。
- ICT を活用した工事安全対策試行工事（潜水作業）については、機器だけでなく、安全管理や情報管理に関わるソフトウェア等も含めた ICT 活用を視野に入れて取り組んでいくことが必要である。
- マルチビームデータクラウド処理システム（MBC）は、ノイズ処理の効率化を目的として導入しているが、現時点では AI による処理結果については、人による確認が必要であることを明確に示しておく必要がある。

（海上工事のオートメーション化の取組）

- グラブ浚渫船を自律化した場合、監視の主体が人からシステムへと移行するため、責任の所在や保険に関する課題が生じる可能性がある。このため、技術開発と併せて周辺環境の整備も進める必要がある。
- オートメーション化が進めば、人間が休息している時間帯でも、最小限の人による監視で作業を継続することが可能となる。安全を最優先としつつ、自動化が適する作業と人手を要する作業を適切に区分し、両者を効果的に使い分けながら進めることが望ましい。

(BIM/CIM 活用に係る取組)

- 設計段階で作成された3次元モデルの施工段階での利用については、施工側が設計側に求めている工夫や改善点、設計側が施工で使ってもらうために事前に配慮すべき点、さらに発注段階での課題も含まれることから、論点を整理した上で、発注者、設計者、施工者で議論していく必要がある。
- BIM/CIM の活用サイクルにおいて、被災調査や災害復旧は重要な要素である。近年は、災害時の新たな調査手法が複数登場していることから、これらを適切に取り入れるためにもフロントローディングを意識したサイクル運用が重要となる。しかし、前段階での作業増加に対する配慮も必要である。
- 現在は、2次元と3次元の並行運用という過渡期にあるため、関連システムの利用が二重作業となっている部分も存在する。しかし、将来的には3次元をベースに変えていくことを目指し、検討・議論を継続していく必要がある。

(人材育成に向けた取組)

- 受発注者向けのオンライン研修については、昨年度と同様に、後日でも確認できるよう映像資料を公表してほしい。

以 上